

【第2部 将来に向けて】

第1章 100周年記念事業



古賀事業所エンジニアリング棟(Eサイト)全景

■第1節 古賀事業所スマートファクトリー化

1-1 エンジニアリング棟(Eサイト)の建設

正興グループ100周年プロジェクトの中で、将来に向けての大きな取り組みとして「古賀事業所エンジニアリング棟(Eサイト)」建設を計画し、準備をしてきました。2020(令和2)年10月21日に起工式を行い約1年の歳月をかけて、2021(令和3)年9月10日に竣工式を迎えました。

Eサイトのテーマは、

- (1)自然エネルギーの活用と環境技術による「環境負荷の低減」
- (2)「人と人とのつながり」を生む空間構成
- (3)「最適な働く環境」による生産性と知的創造性の向上

であり、将来に向けた正興グループの成長を期し、技術開発の中核を担い、また、業務改革を加速させる拠点施設でもあり、DX・ペーパーレス・共創・知的創造性などを実現する“未来創造開発拠点”として開設されました。

建物本体および空調・照明などの設備はSDGs(持続可能な開発目標)を意識した最新の技術を導入し、快適性と省エネ性能の



2020年10月 エンジニアリング棟起工式で
鍼入れを行う土屋直知会長



2021年9月 エンジニアリング棟竣工式



2021年10月 古賀事業所全景



エンジニアリング棟西面外観(国道側・夕景)

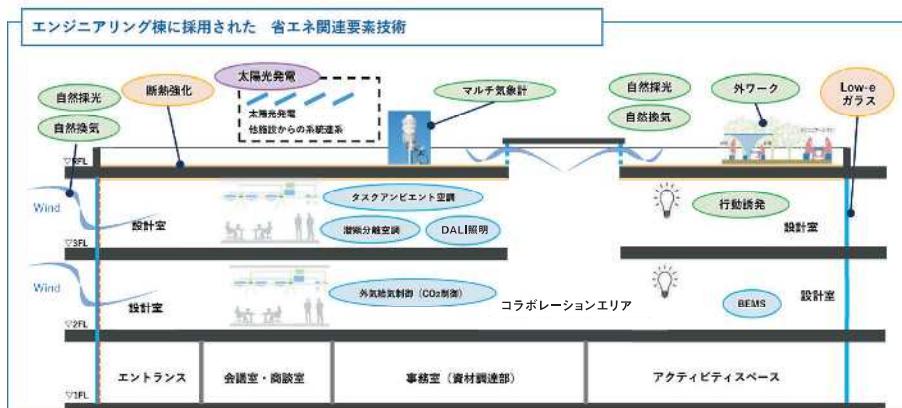
両立を図っています。また、屋上には太陽光発電パネルを設置し、省エネと創エネにより正味のエネルギー消費ゼロ(ZEB)を達成しています。

(1)環境負荷の低減

エンジニアリング棟(Eサイト)は、GX(グリーントランسفォーメーション)を目指していくなかで、ZEB達成に向けてEサイトと第一工場に太陽光発電設備を設置するとともに、パワーエレクトロニクス部門の蓄電池システム・EMSと連携し「創エネ」「蓄エネ」で58%の一次エネルギー削減を行っています。

また、外皮性能の向上や自然エネルギーを使った室内気候調整、高効率空調システムの活用、DALI照明の適用による「省エネ」技術の採用によって57%の一次エネルギーの削減を行うことができました。

その結果、建物の環境配慮・室内の快適性・省エネルギー性能などに関し、国土交通省の評価認証制度による『BELS認証の最高レベル☆5ランク』とNET ZEBを達成し、『CASBEE認証の最高レベルSランク』を取得しました。



Eサイト屋上の「創エネ(太陽光発電)」



「蓄エネ(中容量蓄電システム)」

Eサイト内部の
「省エネ(タスクアシピエント空調・DALI照明)設備」Eサイト屋上の
「省エネ(自然換気設備)」Eサイトに導入された
「省エネ(高効率空調設備)」



BELS認証



CASBEE認証

(2)「人と人とのつながり」を生む空間

これからの新しい働き方に対応し、「低環境負荷・健康増進・快適性、知的生産性の向上」を図る「スマートウェルネスオフィス」を目指し、「静(ひとり)」から「動(集団)」へ空間シフトすることにより、新しい創造が生まれ、部門の垣根やフロアをまたいだ柔軟性の高いワークプレイスを構築しています。



【コミュニケーションエリア】
フロアをまたぐクリックなミーティングの促進



【インフォーマルコミュニケーションエリア】
いつでもミーティングできるスペース



【2F コラボレーションエリア】
チームでの議論や大人数での
情報共有

(3)「最適な働く環境」による生産性と知的創造性の向上

多様な人材が、創造力を発揮し、お客様に密着した「価値の高い製品・サービス」を提供し続ける技術・開発拠点として、「コミュニケーションの抜本的な改善」「設計機能が力を発揮できる徹底的な環境づくり」「Eサイトとしての魅力的な職場を構築」をテーマに働く社員の知的創造性向上と生産性向上につなげて行きます。また、これから働き方としての“Webミーティング”に適したワークプレイスも考慮しています。



【集中スペース】
設計・開発の構想に集中して取り組む・
Webミーティングにも適するエリア



【ABWエリア】
自分に合った働きやすい場所と
環境で生産性を向上



【アクティビティースペース】
社員の健康増進に向けて、
フィットネススペースとして活用



【1F コラボレーションエリア】
商談やプレゼンテーションを行うスペースで
液晶部門の「SILF」を活用

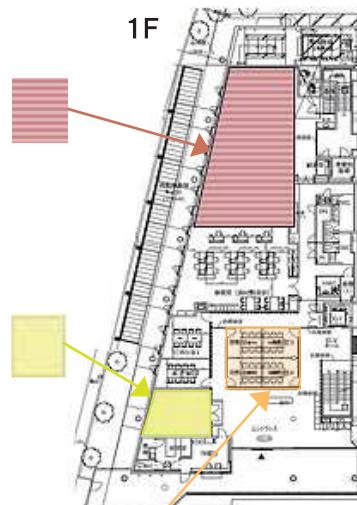


【ABWエリア】
Wモニターやソロ集中席など
多様な執務シーンに対応

■エンジニアリング棟 ワークプレイスの概要

【アクティビティースペース】

- ・軽度な運動による健康づくり、リフレッシュ
- ・社員同士のコミュニケーションの場



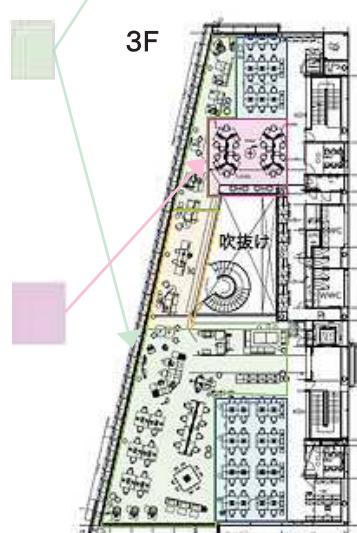
【コラボレーションエリア】

- ・フロア中央吹き抜け部に配置し、全体でのコミュニケーションなど多用途スペース



【固定席エリア】

- ・若手の育成、技術伝承、グループ内コミュニケーションを重視



【ABWエリア】

- ・自律し、適切な業務環境を各人が選択
- ・プロジェクトの効率を重視

【部長席エリア】

- ・部長席を集約し、部門間の情報共有による横串連係強化

1-2 部製工場増築棟の建設

2019(平成31)年3月、古賀事業所スマートファクトリー化に向けての第一期工事として、製缶内作能力増強を目的とする「部製工場増築」に着手。翌2020(令和2)年3月に延べ床面積930m²の「部製工場増築棟」が竣工しました。

建設にあたり、建設場所にあったモールド工場は解体撤去、危険物倉庫およびLPGボンベ室などは移設しました。



部製工場外観



2020年3月 新部製工場竣工式で
玉串奉典する添田英俊社長



部製工場内部

1-3 第一工場博多側改築

2020(令和2)年5月より第二期工事として、築後60年が経過し、老朽化していた第一工場博多側の建て替えに着手。翌2021(令和3)年6月に竣工しました。改築部分の屋内床面積は改築前より約40%増加し、また、全域に空調を備え、省エネと明るさを両立させた照明設備、クレーン設備増強など、高圧盤生産能力増強と効率向上に寄与する工場が完成しました。屋根には全面に太陽光発電パネル(600枚、約200kW相当)を搭載しています。



第一工場外観



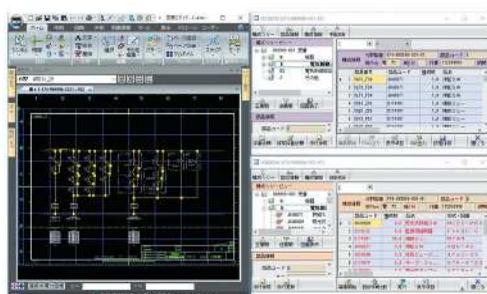
2021年7月 第一工場改築工事竣工式



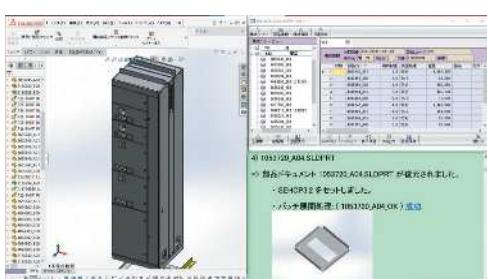
第一工場内部



生産プロセスのDX化概要



シーケンスCADからBOMへの連携



3次元CADからBOMへの展開・連携



BOMシステムの導入

1-4 生産プロセスのDX化

創立100周年を迎えた正興グループが、将来に向かってさらなる生産性と収益性の向上を図るうえで、マザー工場である古賀事業所のスマートファクトリー化の推進が重要であり、今回の取り組みで生産プロセスにおけるDX化を推進しています。

(1) 設計部門におけるDX化

- 「ものづくり支援ツール」として最新技術を搭載したCADの導入による生産効率向上

設計部門に「シーケンスCAD・3次元CAD」を導入し、設計品質の向上を図るとともに設計データを製造部門と共有することで、構造製作と配線組立の効率化を図り、生産のリードタイム短縮に寄与しています。

(2) BOM(Bill Of Materials)システムの導入

設計部門で作成されたCADデータは「BOM」システムと連携させることで「製作部品表の自動作成」「調達の自動化」「既納品検索」が可能になりました。

(3) 作業支援システムの導入

古賀事業所に設置されている「5G」環境を活用していくなかで、「ARグラス」を使って作業支援システムを構築します。生産現場で製品の作業手順や注意点などをARグラス上に表示し、作業者に情報をビジュアル的に伝えることで正確な作業となり、製品品質を向上させるシステムです。



ARグラスによる作業支援

(4) 設計の働き方改革

新たな製品・システムの創出には、部署間の垣根を超える「縦横斜め」のコミュニケーションの活性化と技術交流が重要となります。その実現に「育成レベルに合わせたフリーアドレス制」を採用しました。また、Wi-Fi・内線スマホ・モバイルモニターなど作業ツールの充実、技術文書の電子化などでペーパーレス化を実現させる最適な設計環境を構築しました。

(2) 製造部門におけるDX化

①工程管理システムの整備

製造部門と品質保証部門では、各セクションの工程表を「いつでも・どこでも・だれでも」が事業所内や遠隔地でも閲覧できるようにシステムを整備しています。

進捗状況の確認や工程変更、問題点・改善点の確認に伴う段取り変更が容易になることや関係者による会議の減少で作業効率の向上につながっています。

部品製作進捗画面

②作業項目のバーコード化

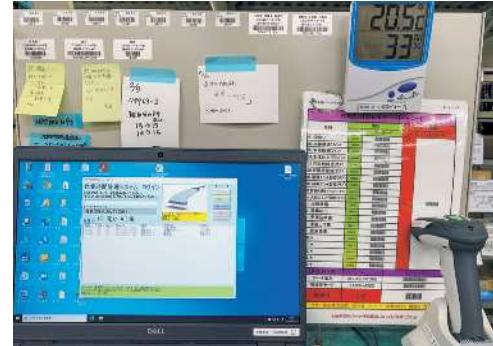
個別の作業者や作業項目をバーコード化し、リアルタイムで作業開始時間と終了時間の計測が可能となりました。実績管理の精度が向上し、製品仕上がりの予測や翌日へのフィードバックで、工程管理の精度が大きく向上します。

③配膳ロボットの導入

作業進捗の精度が向上したことでのジャストインタイムでの配膳が要求されます。そのため配膳ロボットを組立作業現場に配置し、定時定量で電線や小型部品を現場に運搬する配膳作業を自動化しました。

これにより作業者が作業場所から離れる必要がなくなり、集中度を高め、作業品質の向上を図ることができます。

配膳依頼登録画面



バーコード作業登録



作業項目のバーコード化



制御電線を運搬するロボット



部品を受け取る様子



創立100周年記念式典で挨拶する添田英俊社長



記念式典での社員表彰



記念式典で発表された『NEXT20』

■第2節 創立100周年記念式典

2021(令和3)年10月27日、正興電機製作所は創立100周年を迎えました。

古賀事業所において、創立100周年記念式典、記念講演、正友会定時総会および祝賀会が開催されました。

(1) 創立100周年記念式典社長挨拶

創立100周年の節目にあたり、添田英俊社長より正興グループの生い立ちから次の時代に向けての挨拶がありました。

正興電機製作所は、1921(大正10)年に商社として創業し、その3年後の大正1924(大正13)年には電気工事請負を開始、1928(昭和3)年に、配電盤工場を開設し配電盤の製造を始めており、九州電力殿や、西鉄殿など地元のお客様からのニーズに応えてきました。

私たちが得意としていることは、各社のテクノロジーを集め、自ら技術を学び組み合わせ、それを社会インフラ事業のお客様に提供することであり、その結果として、OTとITの事業を行い、さらにプロダクトの製品開発も行う会社に成長し、この3つの事業を通じて、現場の知を理解し、総合力でお客様の課題を解決してまいりました。

2022(令和4)年より、新たな中期経営計画 SEIKO IC2026の5か年計画が始まります。

中期経営計画のもともと成長に重要な柱のひとつがESG(E:環境、S:社会、G:ガバナンス)のE(環境)の問題であり、温室効果ガス排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指すことを正面から受けとめてビジネスに生かすことが、本業を通じて環境問題を解決することにつながります。

正興グループ全体で再生エネルギー100%を達成する計画で、再生可能エネルギー事業では現在納入している太陽光・風力・水力などの電源設備や、家庭用蓄電池、コンパクト水力発電システムからさらに再生化拡大に向けてソーラーカーポート、中容量蓄電システムのラインナップ化、70mを耐える架台レス太陽光パネルなどの独自の製品、システムを国内はもちろん中国、東南アジアへも広く投入していきたいと考えております。

もうひとつの成長の柱は「デジタル」で、「情報と制御の独創技術で未来を創造する」のビジョンのもと、HMS社に資本投資をし、AIをはじめとしたAIカメラ、ARグラスの技術を手に入れました。

これにより、遠隔地で問題が解決できたり、操作手順を分かりやすく支援できるなど生産性が飛躍的に向上するシステムを提供できます。

このようなAIをはじめとしたデジタル化を進めるにあたり、「オープンイノベーション室」「ロボットセンター」を新設しました。これは「AI」「デジタル」の多様な人材を受け入れ、デジタル企業より選ばれる会社に進化し、ベンチャー企業をはじめとして異業種との提携、共創が進むと考えております。

次期中期経営計画は「デジタルファースト」を合言葉にイノベーションを興し、次の100年に向けて成長していきたいと考えております。

(2) 記念講演「変貌するグローバル社会への挑戦～コロナ後、世界はどうなるか～」

当社顧問で経営アドバイザーである㈱AAIC・Japan代表パートナー椿進氏による記念講演をシンガポールからWebで開催しました。

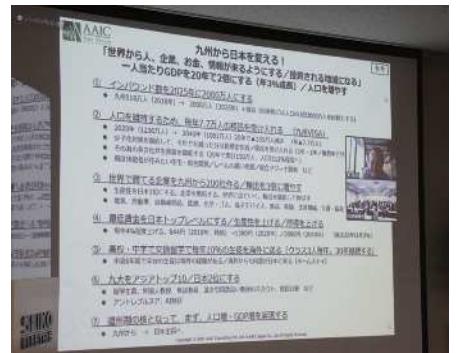
変貌するグローバル社会において、コロナ後の世界はどうなっていくか、7つの本質と2つの蓋然にフォーカスし、これから日本は再生への道筋を示せるのか、当社が目指すアジアを中心としたグローバル展開の方向性へのヒントとして、個人は「成長する世界で戦える力を持つ」、企業は「世界で勝つ」「DX・GXでチャンスをつかむ！」、国や地方自治体は「開国＝世界から人材・資金・企業・情報を呼び込む」をキーワードに講演をいただきました。



古賀事業所Lサイトで開催された記念講演



シンガポールで記念講演をする椿進氏



Webでの講演資料提示(講演概要)

(3) 正友会定時総会

1981(昭和56)年に設立した「正友会」では、昨年はコロナ禍で定時総会、懇親会とも中止を余儀なくされました。創立100周年の節目に第40期正友会定時総会を開催することができました。

今年は定時の経過および決算報告等に加え、長寿者として喜寿、米寿をお迎えの会員様(各々5名)をお祝いし、Eサイトや展示室の見学会を実施しました。



正友会へのEサイト・展示室見学会



第40期正友会定時総会



正友会より贈られた記念樹



創立100周年記念祝賀会の挨拶をする
土屋直知会長

(4) 正興グループ 創立100周年記念祝賀会

Rサイトにおいて、正興グループ役員および古賀事業所幹部、正友会会員により記念祝賀会を開催しました。

土屋直知会長による100周年を記念しての開会挨拶に始まり、寺田蝶美師範による伝統芸能の「筑前琵琶」の演奏が祝賀会に華を添えました。



筑前琵琶を披露する寺田蝶美師範



祝賀会の乾杯の音頭を取る石田耕三取締役



正友会より代表取締役へ
花束の贈呈



正友会
吉田兼治代表の祝辞



正興電機労働組合
嶋宏行執行委員長の祝辞



記念祝賀会の締めの挨拶をする
山科秀之取締役

■第3節 正興グループ物故者慰靈祭

2021(令和3)年10月28日、創業者土屋直幹の菩提寺である福岡市博多区の承天寺において、正興グループでは、初代社長土屋直幹、第2代社長臺清一、第3代社長土屋巖、第4代社長土屋正直、第5代社長大島淳司のご遺影をはじめ、

- ・株正興電機製作所(217名)
- ・正興ITソリューション(株)(5名)
- ・株正興サービス&エンジニアリング(31名)
- ・正興電気建設(株)(23名)

の諸先輩方の芳名録を祭壇に祀り、正興グループ各社代表の出席のもと、正興グループ物故者慰靈祭を開催しました。正興グループを代表して、土屋直知代表取締役会長の施主の挨拶があり、承天寺上方和尚をはじめとする僧侶の方々の読経の中、参列者の焼香で諸先輩方への感謝の意と将来に向けての誓いを捧げました。



土屋直幹創業者、歴代社長および
物故者芳名録を祀った祭壇



土屋直知会長による物故者慰靈祭の式辞



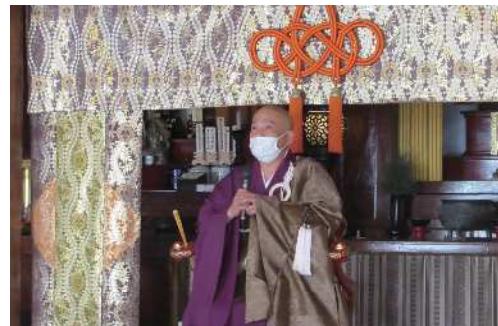
承天寺住職、僧侶による「巡り経」で靈を弔う



添田英俊社長によるお祓いとご焼香



承天寺住職、僧侶による慰靈祭読経



承天寺上方和尚の説法

式 辞

この度、正興電機製作所が創立百周年を迎えるにあたり、正興グループを代表いたしまして、謹んでご靈前にご挨拶を申しあげます。

今まで、幾多の社会情勢の激変に耐え、数々の困難を乗り越えて、百周年を迎えることができましたのも、ひとえに、会社繁栄の礎を築いてくださいました。

土屋 直幹 創業者・初代社長

臺 清一 第二代社長

土屋 巖 第三代社長

土屋 正直 第四代社長

大島 淳司 第五代社長

をはじめ、役員の皆様、社員の皆様など、諸先輩方の絶大なるご尽力のおかげであり、衷心より感謝の誠を捧げます。

思えば、大正十年の創業当時は、第一次世界大戦後の大不況時代であり、極めて厳しい経済環境の中で、電気機械器具の商社としてスタートした正興商会は、今で言うベンチャー企業であり、悪戦苦闘を繰り返しながらも、諸先輩方が知恵を絞り、将来の発展を夢見て、必死に頑張ってこられたものと拝察いたします。

そして、戦中・戦後の復興期、成長期、成熟期という時代の変遷とともに、諸先輩方が大変苦心されながら、環境の変化に果敢にチャレンジされ、最新の技術を習得し、各分野で新しい事業拡大を図られてきました。

その結果、正興グループは大きく成長を果たし、電機メーカーとして、今日の地位を確立することができました。あらためて、深く敬意と感謝の意を表します。

私共は、それぞれの時代に、積極的に新しいことにチャレンジされ、時代を切り開いてくださいました諸先輩方の意志を継いで、さらなる発展を次世代につなぐことができるよう、各部門が一致団結して、新しい時代に向けた事業展開や新製品・新技術開発に積極的に取り組んでおります。

ものづくりをベースに、コンピュータ制御技術(OT)、情報技術(IT)を磨き、電力システムや上下水道、道路・港湾などの公共システム、ビル工場などの産業システムなど、生活に欠かせない社会インフラの普及、高度化に貢献してまいりました。

近年では創業百周年を迎えるにあたり、次の時代の成長を期して「正興グループビジョン100」のプロジェクトをスタートしました。

プラチナ社会(グリーン、シルバー、ゴールド)ノベーション)創りに事業の成長基盤を作ること。

ものづくりの近代化、業務やサービスのDX化、オープンイノベーションによる新事業開発、多様な人材育成、海外事業の本格展開、健康経営、東証一部上場などを掲げ、それぞれ全員参加で取り組み、結果が出てまいりました。

おかげさまで二〇一八年十二月、東証一部上場を果たすことができ、これからのグローバル成長基盤ができました。

また、ものづくりの近代化や新事業開発についても九十周年事業で設置したLサイト、Rサイト、そして今回の百周年事業で設置したEサイト。

これらを新時代のニーズに応える発信拠点として、ダイナミックに活動してまいります。

正興グループは、経営ビジョン「情報と制御の独創技術で、環境に優しい安全で快適な社会の実現を目指す」と、最新の技術開発やオープンイノベーションにより、社会変革へ果敢に挑戦してまいります。

皆様に愛され信頼されるグローカル企業として、ご期待に応えてまいります。

私共は、創立百周年を迎えるにあたり、全社員心をひとつにして、社業のさらなる発展に向けて、より一層の精励を尽くすことを諸先輩のご靈前に固くお誓い申しあげ、ご慰靈と感謝のご挨拶とさせていただきます。

令和三年十月二十八日

正興グループを代表して
株式会社正興電機製作所
代表取締役会長 土屋 直知

■第4節 正興テクノフェア

2021(令和3)年11月1日(月)および2日(火)、古賀事業所Lサイト・Eサイト・第1工場において、創立100周年記念事業として「正興テクノフェア」が『SXとスマートファクトリーの取り組み』をテーマとして開催され、両日で420人のお客様が来場されました。

正興グループ100周年プロジェクトとして新たに建設された「Eサイト」を中心にSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)の推進を支えるさまざまな施策や働き方改革の進展に向けた取り組みなどを展示・実演し、次なる100年の飛躍に向けて正興グループの革新的技術について多くのお客様に紹介することができました。



正興テクノフェアのご案内パンフレット



古賀事業所Lサイトでの受付

1.GX(グリーン・トランスフォーメーション)への取り組み

当社のGXの取り組みは環境技術を活用したEサイト「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル」と、それを支える再生可能エネルギーの開発「創エネ」と蓄電システムの「蓄エネ」、高効率機器を活用した「省エネ」への取り組みを紹介しました。

さらに『地域マイクログリッド構築プロジェクト(資源エネルギー庁支援事業)』の取り組みは、再生可能エネルギーの効率的な活用や災害発生時の電力の安定供給で地域に貢献します。



脱炭素社会を支えるエネルギー効率を追求する古賀事業所



地域マイクログリッドの紹介



中容量蓄電システムの紹介



AI技術を活用したスマートファクトリーの紹介



ARグラスを使った作業支援システムの紹介



2.DX(デジタル・トランスフォーメーション)による

スマートファクトリーの取り組み

正興グループは自社技術に加え外部企業・団体との協創を強化し、AI技術・ARグラスやロボティクス技術など最先端のデジタル技術を活用し、DX化を推進しています。

生産現場でもDX化を加速し、「設計業務の自動化」「生産の効率化」「作業のリモート化」を推進し、工場のスマートファクトリー化を目指しています。

「設計業務の自動化」は、高機能CAD(3D-CAD/シーケンスCAD)とBOM(Bill Of Material)システムとの連係による設計リードタイムの大幅な短縮・設計品質の向上と生産現場での配膳や加工データ受け渡しなどを自動で行うことで生産業務全体を効率化しています。

「生産の効率化」においては、ARグラスと3D技術を活用することで作業時間の短縮と品質確保につなげています。さらに工場内や遠隔地など場所に制限されない働き方も可能にし「作業のリモート化」を実現しています。



DXボードを活用した生産計画の紹介



警備ロボット、巡回点検ロボットの紹介



ヘルスケアサービスの紹介



3.健康経営の取り組み

社員の働き方の多様性を重視したEサイトのワークプレイスは、創造性を活性化させるために多様な「場」を用意しました。

また、ヘルスケアソリューションを自社内に展開することやフィットネススペースを新たに設営することで、社員の健康増進を図っています。さらに自治体や企業で健康システムを活用いただくことで健康寿命の延伸に貢献しています。



設計改革の取り組み事例の紹介

■第5節

正興グループ創立100周年記念「感謝の集い」

2021(令和3)年11月1日、ヒルトン福岡シーホークにおいて、正興グループ創立100周年記念「感謝の集い」を開催しました。正興グループの事業にご支援をいただいている株主様や取引先様、金融機関をはじめ多くの方々にご参加いただき、感謝の心を届けることができました。

●第1部

記念講演「福岡・九州・アジアのこれからの20年」

(株)ビジネス・ブレークスルー 代表取締役会長 大前研一様

世界で短期にしかも劇的な飛躍を遂げた都市のひとつである中国・深圳地区は、経済特区に指定後、香港を中心に外資系企業の急速な進出の波に乗り、ITとデジタルを核に巨大サプライチェーンを確立することに成功。「広東・香港・マカオ大湾区」という国家構想に基づく行政の支援も後押しし、今やイノベーションエコシステムを形成する都市へと成長、進化し続けている。

転じて日本でも、地方創世の機運は高まっているものの、九州、とりわけ福岡の優位性を強固に高めていくためには、「ゼロから1を作る発想(力)」を原動力に、メガリージョンの形成と効果の拡大による『ヒト・カネ・モノ』を取り込む施策を講じる必要がある。

また、人口減少の日本において、外国人人材の獲得なしでは経済成長は維持できないことは明白で、外国人が活躍する仕組みを政治レベル・地域レベル・企業レベルで早急に構築すべきである。

優秀な人材がスタートアップ企業を立ち上げやすい環境にすることで、新たな価値の創造につながってくる。多様性を重視することは、優秀な人材を獲得する必須条件でもある。

目指す方向性、求められる取り組みではアイデアを出し、連携・協力し、地域に反映し着実に実行していくことが重要である。

「正興グループ将来ビジョン」

(株)正興電機製作所 代表取締役社長 添田英俊

正興グループ100周年にあたり、これまでの正興グループの社是「最良の製品・サービスを以て社会に貢献す」を実践する経営ビジョンと経営方針に沿って2014年に「正興グループビジョン100」を策定し、『国内をベースにアジアで成長する正興グループ』をミッションに取り組んできました。

20年後を見据えた『NEXT20』をふまえ、サステナブルな社会への課題解決や多様性によるイノベーションの創出に向けて新たに「中期経営計画 SEIKO IC2026」を策定しました。

『デジタルファースト』『脱炭素社会の実現』『One 正興』をキーワードにプロダクト技術、OT、ITにAIを加えた4つの技術の統合とグループ総合力を發揮して、持続的な成長に向けた強固な基盤づくりを推し進めてまいります。



記念講演「福岡・九州・アジアの
これからの20年」



正興電機グループ 創立100周年記念パーティー



正興グループの将来ビジョンを説明する
添田英俊社長

SEIKO ELECTRIC

正興グループビジョン100

国内をベースにアジアで成長する正興グループ

事業環境の変化 情報×制御=独創技術 プラチナ社会
(SDGs、スマート社会)

・テクノロジー ・デジタル化の進展 ・環境・エネルギー効率 ・ICT技術による資源効率化 ・新規インフラ開拓	・情報基盤整備の継続 ・社会インフラの効率化 ・ビッグデータ、クラウド活用 ・グリーンイノベーション ・ヘルステクノロジ	・グリーンイノベーション ・シルバーアイノベーション ・ゴールドイノベーション
--	--	---

【経営基盤強化プロジェクト】
○生産改革・近代化プロジェクト ○ガバナンス強化（東証上場プロジェクト）
○海外事業拡大プロジェクト ○組織人材活性化プロジェクト
○健康経営プロジェクト

2014年に策定した正興グループ活動方針と
重点プロジェクト

SEIKO ELECTRIC

重点取組み方針

取組方針1：デジタルファースト
デジタル技術による社会課題の解決

取組方針2：脱炭素社会の実現
カーボンニュートラルへの取り組み

取組方針3：One 正興
グループ総合力の発揮

新たな中期経営計画の重点方針

●第2部 記念パーティ

1. 代表者挨拶 (株)正興電機製作所 代表取締役会長 土屋直知
2. ご来賓祝辞 九州経済産業局長 後藤雄三様
福岡県知事 服部誠太郎様
九州電力(株) 代表取締役会長 瓜生道明様
(株)日立製作所 取締役代表執行役会長 東原敏昭様
3. 祝儀の舞 博多券番様
4. 鏡割り
5. 乾杯 音頭 (株)九電工 取締役会長 西村松次様
6. ビデオメッセージ 福岡市長 高島宗一郎様
7. 創作講談「創業者・土屋ちよっかん物語」 講談師 神田紅師匠
8. 社歌披露 ミュージカル俳優 井上芳雄様
9. 中締め(博多手一本) 西日本鉄道(株) 代表取締役会長 倉富純男様



正興グループを代表して挨拶をする
土屋直知会長



ご祝辞をいただく九州経済産業局後藤雄三局長



ご祝辞をいただく服部誠太郎福岡県知事



ご祝辞をいただく九州電力(株)
瓜生道明会長



ご祝辞をいただく(株)日立製作所
東原敏昭会長



演奏 九州交響楽団(カルテット)



ご祝儀舞「春日三番叟」を披露する博多券番様



ビデオメッセージでご祝辞をいただく
高島宗一郎福岡市長



正興グループ100周年記念「感謝の集い」にご参列いただいたご来賓の皆様



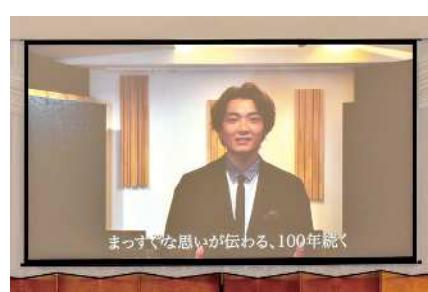
ご来賓の皆様による鏡開き(福岡の地酒「百年蔵」)



乾杯の音頭を取っていただく
(株)九電工西村松次会長



創作講談「創業者・土屋ちょっかん物語」を語る神田紅師匠



創立100周年を機に創設した社歌「SEIKO PRIDE」を
ミュージカル俳優井上芳雄様の歌唱にて披露



「感謝の集い」の中締め挨拶をいただく
西日本鉄道(株)倉富純男会長



YouTubeで井上芳雄氏歌唱の
社歌を聞けます

■第6節 社歌「SEIKO PRIDE」の創設

創立100周年を記念して、正興グループの社歌「SEIKO PRIDE」を制作しました。

目的は、正興グループの未来と方向性を共有し、ブランドを世界へ発信するなど、ステークホルダーの皆様と価値観を共にすることがあります。

社歌を歌っていただいたのは、福岡市出身のミュージカル俳優井上芳雄氏です。

毎日の始業前に、社員の心に刻む歌として放送し、浸透を図っています。

SEIKOPRIDE
OF00099Fix

[IA]

Melo.

はげしくうつろうじてじだいのなかで
さりひらいてゆくじてとてたながで
なにがで一かなのがるすえ
ひかりあふれらあすせ
いまこのほしめみろいをみすえ
いつしがそてがみいきそつなん
のかけーちとどけーたいーいづ
のかけーはしのよーうにーなが
[IB]

もこのねににらえてるのは
あらできーたこめきせき
いというなみーEnergy
をこえてゆくLe gacy
[IC]

たかにこしきーでさないことが
たかにこしきーでさないことが
あらいたちーたこめきせき
あらいたちーたこめきせき
りゆたかでーさよらか
りゆたかでーさよらか
すもひーとがーくらすこめせか
すもひーとがーくらすこめせか
めぐ
めぐ

りづづいていくみらいへおもびだそ
りづづいたさるみらいへおもびだそ
[Inter]

—

[2]

くねんさまのゆめにーながでーお
モテー Once Se— 30 わたし
[3C]

たちにこそーやめべきことがあるは
りむねーだーいでみだじたかーは
てのひーとーははえなまにーちがあたもつづくような
らのまー

1. 激しく移ろう時代の中で

何ができるのだろう

今この地球(ホシ)の未来を見据え
新しい価値 届けたい

いつもこの胸に燃えてるのは
使命という名の Energy

私たちにしかできないことがある
磨き上げた知恵と積み重ねた力
緑豊かで清らかな流れが
巡り続けていく未来へ歩き出そう

2. 切り拓いてゆく 手と手携え

光溢れる明日を

いつしかその手が 地域をつなぐ
希望の架け橋のように

永く歩んできたこの軌跡が
時を超えてゆく Legacy

私たちにこそやるべきことがある
信頼に応える変革への決意
愛する人が暮らすこの世界を
希望(ひかり)で満たされる未来へ導きたい

100年先の夢に向かって歩もう

One Seiko

私たちにこそやるべきことがある
誇り胸に抱いて 踏み出した一步
総ての人と微笑む毎日が
明日も続くような未来を創り出そう

■第7節 地域貢献

7-1 古賀市ひだまり館へ

太陽光発電および蓄電システムの寄贈

2021(令和3)年7月、創立100周年記念事業の一環として、日頃より大変お世話になっている古賀市ならびに市民の皆様へ少しでもお役立ちできるように当社が製造している「ENEPAC HyBriD(エネパックハイブリッド)」を寄贈しました。

太陽光発電および蓄電システム設置による効果は、太陽光で発電した電力を自家消費することで、電気料金およびCO₂削減効果が生まれ、脱炭素社会の実現に近づいていきます。

「ひだまり館」は災害時の避難所として活用されることから、台風などでの停電時には、蓄電システムから給電することが可能となり、多発する自然災害時のバックアップ電源として活用することができます。

また、ハイブリッドシステムであることから、昼間は太陽光発電分、夜間は電池からの放電と、より長い時間「ひだまり館」へ電力を供給することで、避難所としての役割に貢献します。

7-2 「まちにわプロジェクト福岡」の設立

(株)正興電機製作所創立100周年にあたり、地域・学校・自治体・企業が協力して花と緑のある持続可能なまちづくりを推進する「まちにわプロジェクト福岡」基金を設立し、本社所在地に隣接する東光2丁目緑地に花時計と花壇を整備しました。2022(令和4)年5月18日に光山裕朗福岡市副市長、馬場哲久博多区長ご臨席のもと地域の皆様とともに披露式を迎えました。

当該地は、福岡の陸の玄関口である博多駅と空の玄関口である福岡空港との中間に位置し、県外および外国からの往来者も多く、福博のランドマークと言える土地です。

この場所を起点とし、福岡市が推進する「一人一花運動」ボランティア花壇を活用したまちの新たな景観づくり、花や緑あふれるまちづくりを推進します。産官学民が協力して、緑化の推進、地域の活性化、SDGsの実現、脱炭素社会実現に貢献します。

1. 緑地(東光のまちにわ)の概要

(株)正興電機製作所の社屋と既存のイチョウを背景に、地域に開かれたシンボリックな花時計と花壇を計画しました。

花時計および既存のイチョウをスポットライトで、花壇の足元は柔らかなカーブを描いたライン照明で、夜間の都市景観を演出します。

花時計部は季節の花(一年草)を植栽し、花壇部は持続的な花の修景として、宿根草をメインにした植栽で表現しています。

当社製品である蓄電池エネパックハイブリッドを活用した再生



贈呈式で古賀市田辺一城市長と添田英俊社長と
蓄電システム「ENEPAC HyBriD」



古賀市隣保館「ひだまり館」



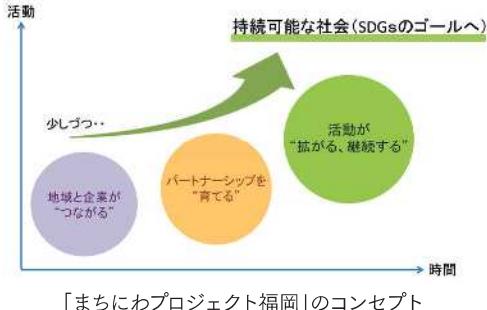
一人一花ボランティア花壇認定書贈呈式で
光山裕朗福岡市副市長と土屋直知会長



贈呈式に参加の皆様で記念撮影



再生可能エネルギー供給で運用を支えるシステム



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
花壇	春花壇	夏花壇				秋花壇			春花壇			
活動	イベント 「花の植込み」	植付				植付		植付				植付

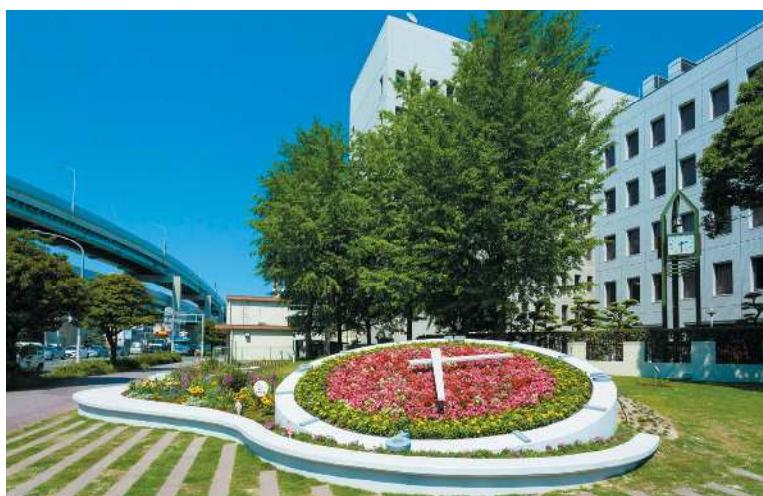
「まちにわプロジェクト福岡」の年間活動計画



「東光のまちにわ」で植えられた花とステッカー



再生可能エネルギーで照らされた花時計と樹木



2022年5月 完成した「東光のまちにわ」の花時計と花壇

可能エネルギーにて動力を確保し、CO₂の削減、カーボンニュートラルの実現に寄与します。

2.活動のコンセプト

地域、企業、行政、専門家がつなぐ「まちにわ(街に輪)」の創出

①「まち」の庭

公共の緑が比較的少ないエリアを対象に、産官学民が協力して花とみどり豊かな空間創出を実現します。

②「ひと」とのつながりで輪を広げる

花とみどりをはぐくむ共同作業を通じ、新たな仲間やコミュニティでの出会いの機会を提供します。

③「とき」の連鎖

花とみどりを維持管理する技術に触れながら、次世代へ継承していくべき環境について考える行動を誘発します。

3.活動内容

①ワークショップ・イベントの開催

年3回の花時計・花壇の植替えに加え、専門家による季節ごとのワークショップやイベントを開催し、株分けや挿し木の体験を通じて、他の地域とのネットワーク形成や共同体験を行います。また、ワークショップを通じて、地域の資源や文化とともに探し磨きあう先駆的な活動を行います。

②新たな活動の展開(ローカルSDGs)

農体験を通じて、多様な業種とのつながり、学びあいながら協働で活動の場を広げていきます。

③緑化推進活動の展開

④地域の清掃活動

⑤花壇の維持管理等のボランティア活動

4.活動の目指す姿

活動の第一弾は「東光のまちにわ」から始まります。

小さく生まれて大きく成長していくような、継続は力なりとなる活動を目指します。

1年間の季節ごと活動を試行的に行い、前年の反省点・改善点を翌年以降の活動に反映しながら、体制を充実させます。

活動に賛同していただける市民や団体・企業を巻き込み、活動の輪を広げ、オール福岡による、よりよい地域・社会・環境づくりを目指します。